



となり、参加された各々にとって良い思いでになったのではと思います。それでは、当日の雰囲気を伝えるべく職員の感想と賑やかな写真を記載したいと思います。のんびりとご覧になってください。

ケアポート・田谷の夏祭りも今年で7回目になりました。皆様いかがだったでしょうか。昨年は雨にたたられた経緯があり、今年も雨が降らないか心配をしておりました。しかし当日は、梅雨明けからの猛暑続きとなり快晴の暑い1日となりました。テントは日除けとしても十分に役立ったと思います。

先ほど述べたとおり、雨の開催となった昨年に続き、屋外を主会場とした開催は今年で2回目となります。今年は「昨年のリベンジ」という思いで、天候による影響を極力抑えられるように4月から準備を進めてきました。

昨年ご参加頂いた方は、テントが多くなっている事など気付かれた事があると思います。今年は全天候へ対応できるようにとテントの数を倍以上にし、サイズも大きくして屋台と客席をカバーできるようにしました。又、昨年は初の屋外ということで、結果的に多少実験的な結果になってしまった事がありました。その中でも大きな反省点となってしまった食数については、今年は屋台の数を増やし、量も十分に用意させて頂きました。一部不足がありましたが、概ねご満足いただけたのではないかと思っております。



来年も、何か新しいことを一つでも取り入れられるよう考えて行きたいと思います。今年もご家族やボランティアの方々にご協力を頂き、無事に終えることができました。ご家族には引き続き、いろいろとお願いすることもありますが、ご協力を頂けますようお願い申し上げます。

相談員:大高



今年の夏祭りは、晴天でとても暑く、夏らしさを感じる1日だったと思います。

昨年から会場を、施設内中心から屋外へと大幅に変更したのですが、昨年は天候に恵まれず、屋外を中心とした開催に水を差す結果となってしまいました。今年はそれを覆す様な暑い1日になったと思います。

屋台の数も昨年より2つ増え、食べる物の選択肢も広がったものと思います。

皆様の、とてもおいしそうに食べられていた姿が印象的でした。

フィナーレには花火を行い、夏の夕闇を色鮮やかに飾ることができました。

皆様から大きな拍手と歓声を頂いた事が、とても良かったと思います。

気が早いですが、来年はどの様な夏祭りになるか、楽しみにしていて下さい。

2F介護：渋谷



8月1日炎天下の日曜日に、ケアポート田谷の夏祭りを行ないました。

3階ベランダに掲げられた、花火の描かれた、大きく素敵な看板をご覧になられたでしょうか。

この看板はリハビリスタッフのデザインで、文字はパソコンから打ち出した型紙を、介護職員が仕事の合間に切り貼りし、利用者の方に色付けをした力作です。

当日の午前中には、2階、3階の各フロアにて、祭りの気分を盛り上げる為、スイカ割りを行いました。沢山の人が見守る中、ご利用者の方々が竹刀を持って挑戦したのですが、皆さん童心に帰ったかの様に、真剣に竹刀を振り上げていました。

私たち職員は午後から会場設営を行いました。一番太陽が照り付ける中、テントを組み立て、テーブル各屋台の準備など、汗まみれになりながらそれでも楽しみにしてくれている皆さん

の事を思いながら仕上げていきました。

午後4時から夏祭りはスタートでしたが、この時間でも太陽は容赦なく照りつけていました。それでも、ご家族の方々もお越し下さ



り、人も増え、お祭りらしい賑わいがやってきました。利用者の方々は、皆さん何時もとは違った笑顔であちこちの屋台をのぞき、家族の人と談笑し、職員と肩を並べ歩く姿がとても楽しそうに見受けられ、準備をしてきた私達も自然と笑顔になりました。

フィナーレは花火。担当者が苦労しながら構成を考えたかいがあり、風向きにも恵まれスムーズな流れと美しいペーペントが繰り広げられ、皆さんの拍手と歓声の中無事に夏祭りが終了しました。

終了後には疲労感がありましたが、とても心地よく、ここしばらく味わったことの無いものでした。

皆さんのご協力に感謝いたします。 3F介護：納所

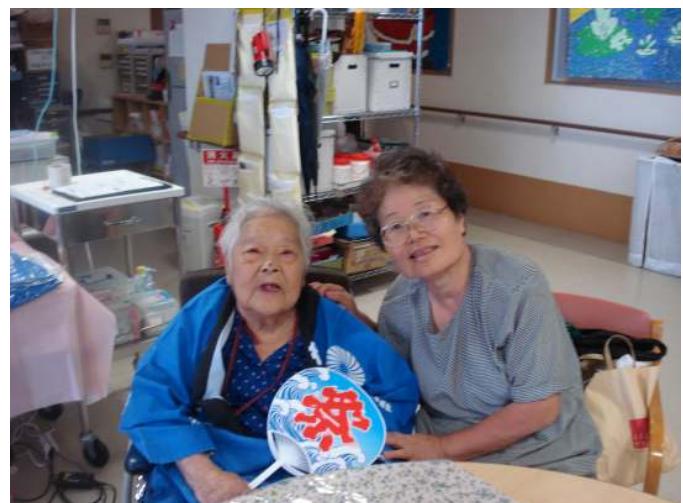


毎年のように訪れては巣立つツバメ達の成長に合わせる様に、準備を進めてきた夏祭りが無事に終わりました。例年に比べ過酷な今年の猛暑の中、ご参加いただきましたデイケアご利用の方々には頭が下がる思いです。また、私たちと一緒に祭りのイベントを盛り上げていただいたボランティアスタッフの方々、本当にありがとうございました。

当施設の名物にもなりました、デイケア利用者が作った大提灯の横で、今年は写真撮影ならびに即時プリントサービスを行いましたが、大変ご好評なようでした。デイケアスタッフが主に対応していたのですが、デイケア利用者のみならず訪れた方々すべての人の笑顔が、今回の祭りの成功を物語っているようでした。

実際にご利用の方からいただいた話の中に「今年は食べ物が多くてよかったです」等の意見もあり、また手作りのうちわを使い暑さをしのいでいる姿が、祭りの雰囲気を盛り上げているようでもありました。

職員の準備で始まったこのイベントも、皆様方の笑顔で盛大な祭りになった事を嬉しく思い、感謝の気持ちで終えることができました。 デイケア介護：平野



ケアポート田谷夏祭り・8/1

看板作り



製作には施設のご利用者様の手を貸して頂きました。ローラーを使ってパネルを黒塗りし、その上から刷毛を使ってカラフルな花火の絵を描いて頂きました。

3階のベランダに夏祭りの看板を設置していました。気づかれた方も多いかったのではないかでしょうか？



ベランダ菜園

3階でベランダ菜園を行っています。トマト、キュウリ、ナスが、今年もたくさん採れました。栽培に欠かせない水やりは、ご利用者様が積極的にお手伝いして下さっています。秋には里芋とサツマイモが収穫できる予定です。焼き芋や芋煮を今から楽しみにしています。



上述2つ 作業療法士:岡澤

濁酒と駐在さんのサーベル

南部 圭(ペンネーム)

綱文後記

私は幼少期を小田原で過ごしました。家はなだらかな坂の上にあり、同じ敷地に祖父母が暮らす古い母屋がありました。今では遠い昔の思い出です。「おう、帰っていたか」 小学校から帰ると、母屋の座敷に胡坐をかいていた村の駐在さんに声をかけられました。「うん」と、私は生返事をして隣へ腰を下ろしました。駐在さんは立派なコールマン髭を生やし、恰幅のよい身なりをしていました。腰のベルトから外したサーベルが、手を伸ばせば届く距離に置かれていました。「どうだね、今年の出来は！」 駐在さんが奥の部屋へ向かって大声で言いました。「ああ、まあまあだね」 襦の奥から祖母が現れ、抱えていた甕を駐在さんの湯飲みに傾けて、白くにごった中身を注ぎ入れました。とたんに部屋中が甘酸っぱいような香りで満たされました。当時、家で濁酒作りをするのは珍しくありませんでした。駐在さんは咽喉を鳴らして飲み干すと、「これは、なかなか良い味だ」と、祖母にむかって言いました。祖母は少し咳き込みながら、「もう一杯やってみるかね」と、太った体をゆすって満更でもなさそうに答えました。祖母と駐在さんが話している間、私の視線は畳の上のサーベルに注がっていました。駐在さんの腰の辺りで揺れている眩い輝きを、いつも少年らしい憧れをもって眺めていました。そっと手を伸ばして触れてみると、それは自分が想像していたような重厚さではなく、装飾の金色も幾らかくすんでしまったように感じられました。「さて、ぼちぼち行くか」 駻在さんの声に、私は慌てて手を引っ込めました。恐る恐る顔を上げると、駐在さんは何やら意味ありげな、優しい微笑を浮かべて立っていました。夕焼けに染まる坂道を、ほろ酔い加減の自転車が頼りなげに下っていましたのを覚えています。今もある時の駐在さんの微笑みを思い浮かべると、二人だけの秘密を共有しているような心持ちがして、こちらもつい微笑んでしまうのです。